小・中学校再編にかかる地区意見交換会（上浦会場）

１ 日時　　令和８年９月２９日（火）　１９時～２０時３０分

２ 場所　　上浦地域コミュニティセンター

３ 参加者　　２０人

４ 事務局　　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等ついて説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	市の予算を見ると教育関係費で約 36 億円が支出されています。今回の小・中学校再編プロジェクトによって、市全体としてどの程度の支出削減（財政負担の軽減）を見込んでいるのでしょうか。
事務局	今回の統合に伴う支出削減の見込みですが、現時点の再編案には校舎の建て替え等の建設費用は含まれておりません。通常の学校一般管理費等の削減として、小・中学校合わせて 5 年間でおよそ 2 億円程度の削減を試算しております。人件費は含まれておりません。
参加者	5 年で 2 億円の削減とのことですが、学校数を減らすことで施設の更新費用等は節約できるかもしれませんが、地方交付税の算定上、学校数や学級数の減少に伴って市への交付税交付金も大きく減額される可能性があります。目先の経費節減以上に交付税が減少し、かえって市の財政を圧迫することにならないか懸念しておりますが、そうした財政的影響は検討されているのでしょうか。
事務局	交付税の減少については把握しております。ただし、スクールバス運行経費に対する交付税措置等も増額される分があります。建物の建て替えや改修にかかる将来的な費用負担の増減も含め、詳細な数値についてはまだ大枠の試算にとどまっているのが現状です。
参加者	東雲小・中学校の立場から見ますと、今回の案は遠距離通学等の負担増ばかりで、地元にとってのメリットが感じられません。子どもたちは少人数の中で仲良く過ごし、教員も熱心に指導してくださっており、母校を残してほしいという思いが強いです。また、住民説明会に先立って新聞報道が先行したことで、地域に大きな混乱と不信感を招きました。通学支援等の具体的な計画も示されておらず、より綿密な計画をもって臨んでいただきたいです。

事務局	報道先行の経緯についてお答えいたします。市から報道機関へ積極的に情報提供したわけではなく、8 月 10 日に市議会へ報告した場に報道関係者が同席しており、それを基に記事化されたものです。結果として不安を与えてしまったことをお詫び申し上げます。 現在の教育を否定するつもりは一切ございません。再編における最大のメリットは「集団規模による切磋琢磨」です。多様な仲間と意見を交わし、切磋琢磨する経験が将来必要になると考えております。 一定の集団規模を確保することで、少人数ならではの課題（大人数に入ったときの対応など）を乗り越えられると考えております。また、児童・生徒数が増えることで県の配置基準に基づき正規教員が配置されやすくなり、指導体制が充実することもメリットです。
参加者	立地や施設の状況等も考慮した再編になっているのでしょうか。また、閉校となった側の校舎や施設等の跡地活用についてどのように考えておられるか伺いたいです。
事務局	立地につきましては、小学校で 1 学年 20 人以上を確保するため近隣校同士を組み合わせました。東雲と八幡の統合も検討しましたが 20 人に達しないため、佐伯東や佐伯小との統合案となっております。跡地利用については、現時点では市役所内部での具体的な協議に至っておりません。
参加者	学校再編によって周辺部の学校をなくせば、若い世代の転出が進み、人口減少がさらに加速する恐れがあります。どのようにお考えでしょうか。
事務局	過去に市内他地域で学校統合を行った際、スクールバスによる送迎体制等を整備した結果、閉校後に人口が増加あるいは維持された地域の実例もございます。通学支援等を講じることで地域への影響を抑えてまいります。
参加者	放課後児童クラブについて、佐伯小学校等へ統合された場合のお迎えはどうなるのでしょうか。共働き世帯が毎日佐伯市内まで往復 1 時間かけて迎えに行くことは困難です。児童クラブの送迎や運営についてどう考えていますか。
事務局	学校統合に伴う放課後児童クラブのあり方は担当課（こども福祉課）と協議中です。上浦の児童クラブが直ちに廃止されるとは考えておらず、下校時にスクールバスで上浦まで送迎し地元の児童クラブで引き渡す手法も含め協議

	を進めます。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	上浦地区から学校がなくなれば、旧上浦町は終わってしまうのではないかと危機感を抱いています。地方自治法に基づき、住民の直接請求によって合併を解消し、旧上浦町として独立・分立した方が、交付税や補助金を独自に獲得でき、学校や施設を自前で維持できるのではないでしょうか。
参加者	通学の問題について、一般客が混乗するコミュニティバスに通学させることだけはやめていただきたいです。通学児童・生徒専用のスクールバスを運行していただきたいです。
参加者	昨年のアンケートでは、八幡小学校ぐらいの距離との統合を想定して「やむを得ない」と答えました。佐伯市中心部の約 200 人規模の学校と統合すると聞き、率直に嫌だと感じています。急に大人数の環境に入る子どもたちの不安や心理的負担は非常に大きいです。子どもの気持ちを最優先に考えた見直しをお願いしたいです。
参加者	東雲小・中学校や米水津小・中学校は、全国学力・学習状況調査で非常に高い水準を維持しており、手厚い個別指導の強みがあります。全国トップクラスの教育力を有する小規模校を廃止・統合するのではなく、その教育環境を地域の強みとして発信し、移住定住促進や町おこしに積極的に活かすべきです。
参加者	昨年のアンケートに回答した際は、佐伯小学校との統合を前提として考えていたわけではありません。「この学校とこの学校を再編します」という具体的な内容を示して尋ねる場合と、「統合に賛成ですか、反対ですか」とだけ尋ねる場合とでは、回答する側の受け止め方や判断も変わってくると思います。 そのため、昨年のアンケート結果を、今回の再編・統合についての意向を示すものとして、そのまま「すべて正しい」と捉えることには疑問がありま

	す。アンケートの質問内容や前提条件を踏まえた上で、結果を慎重に扱っていただきたいです。
参加者	片道 30 分以上の遠距離通学に対する不安を払拭するため、単に「バスを運行する」というだけでなく、放課後活動や部活動に合わせた複数便の運行体制や、地元の放課後児童クラブの存続など、保護者が具体的に安心できる支援策を明示してください。
参加者	全国的に見ても、合併した市の周辺部ほど人口減少率が高く、旧町村が独自性を失っています。旧町村単位での自立や権限強化を図り、ふるさと納税の自主獲得、商業施設の誘致、定時バスの充実などを進めることで、学校と地域コミュニティを維持・活性化させる方策を真剣に考えるべきです。
参加者	母校がなくなるのは寂しいです。学校行事に参加して、地域ぐるみの手厚い教育環境と温かい絆を改めて実感いたしました。大規模校へ統合されることで、そうした地域の温かな見守りや子どもの安心感が薄れてしまうのではないかと心配です。子どもたちが安心して地域で育つ環境を維持していただきたいです。